謹賀新年
2008年―元旦
医療法人財団　東京勤労者医療会

くらしと健康

発行　医療法人財団東京勤労者医療会　1部60円
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷1―30―7
TEL(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

笑顔とりもどす医療に誇り

代々木病院回復期リハビリテーション病棟

もうすぐ開設1年

2007年3月に開設した代々木病院の回復期リハビリテーション病棟は、もうすぐ1年を迎えます。入院患者さん、村井麻衣子看護師長、相澤秀樹医長に聞きました。

「明日から杖歩行の訓練」とはりきる青柳さんと村井看護師長

代々木健康友の会会員の青柳武さん（83歳・新宿区）は、07年9月19日、転倒して左大腿骨転子部を骨折、救急車で東京警察病院に運ばれ入院手術を受けました。

「明るく周囲の人に心配りをされる深い人間性、優しさのある人、リハビリに積極的」（紹介医）な青柳さんは、10月22日、代々木病院回復期リハビリ病棟に転院し、約3カ月後自宅復帰に向け集中してリハビリ訓練を受けています。「食事もしっかり食べて、がんばっている」と青柳さん。

村井麻衣子看護師長に回復期リハビリ病棟の活動を聞きました。

人生が変わってしまう

回復期リハビリテーション病棟は、脳卒中など「突然」発症する病気の急性期治療を終えた患者さんにリハビリテーションを集中して受けていただき、家庭復帰を支援する病棟です。

発症前は、小さなお子さんや家族を養っていかなければならない世代の方も少なくありません。発症はたいていい「突然」起こるので、その瞬間からその方やご家族は、人生が変わってしまうというくらい過酷な状況におかれます。私たちは、そういう患者さんの思いを聞き、気持ちに寄り添って応援していきます。

自立に向け、チームで支援

患者さんの病棟での生活全般が訓練になります。装具をつけて歩けるようになって、自宅に戻ってからも機能維持のためのリハビリが必要ですから当院のスタッフがご自宅を見せていただいて、必要なことを確認し、ご自宅で生活する体力をつけるためのさまざまな訓練をセラピスト(※)だけでなく、スタッフ全員で行います。

また、入院時には寝たきりで、経管栄養で栄養・水分摂取をしていた方で、訓練によって経口摂取に移行できた方は開設から11月までに10人以上になりました。

リハビリ担当医、セラピスト、看護師、介護福祉士、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの職種がコミュニケーションをよくとりながらチームで訓練を行います。

飲み込む力の回復を促すセラピストによる訓練、病棟でのアイスマッサージ、誤嚥性肺炎を防ぐための口腔ケア、訓練食の介助には細心の注意を払っています。介護福祉士も離床時間の延長で耐久力をつけたり、レクリエーションに力を入れたり、清潔を保つためのケアをしたりします。

入院時に比べ、患者さんの表情もだんだん明るくなり、笑顔と発語も増えていきます。口から食べることの大切さを、回復期リハビリ病棟になってからさらに強く感じています。退院時、「ここに入院できてよかった」と言ってくださる患者さんとご家族の一言がなによりうれしい。

私は、この病棟で働いていることに誇りを感じます。

※理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

都心の地域医療に貢献

相澤秀樹医師

代々木病院のある都心地域は、脳卒中などの急性期の治療を行う大病院はたくさんあります。しかし、急性期の治療のあと直ちに専門的なリハビリチームによる機能回復訓練が受けられる病床は、まだ数が少ないのが現状です。

07年3月に開設した代々木病院の回復期リハビリ病棟は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの体制も整い、地域の大病院や、中小の外科系病院からも信頼され、患者さんがたくさん紹介されてきます。医療療養病棟の時代から認知症、高齢、寝たきりの患者さんへのリハビリテーション的ケアの経験を蓄積してきたので、回復期リハビリ病棟へスムーズに移行でき、地域の医療連携をより強めることができました。

今後も、チーム医療にいっそう磨きをかけ、より地域住民のみなさんに役立つ病棟にしていきたいと思います。

手術台

創刊以来何人の人がこの欄を担当してきたのだろう。昨年の半ばから担当してみて初めてその大変さが分かった▼『くら健』が出ると先ずこの「手術台」を読むのを楽しみにしていた。朝日の「天声人語」を挙げるまでもなく、こういった欄は、その新聞の「もう一つの顔」であるからである。たった410字なので、字を削る、いや身を削る思いで書いている。だから賀詞省略である。なぜなら私の水晶玉に映る今年の日本の運勢は暗雲が漂っているからである。4月から医療構造改革の本番がはじまる予定である。医業が成り立つか否かという台風が近づいている▼だが暗雲とはこのことではない。そのことをほとんどの人が知らないということである。ちなみに家族に聞いてみるといい。代々木病院の職員は自に問うて欲しい。「特定健診・特定保健指導」をどれだけ判っているか。（私の）年頭の誓いは「外出民主主義は止める」である。先ず家族に、親戚に、ご近所にこの危機を知ってもらう、である。（ま）